

看護学方法論

到達目標: 1. 健康にかかわる課題についての判断、健康ニーズに応じた看護行為の実施、課題の評価を計画的に行うための基本的考え方を理解できる。
2. 看護師として看護実践における対人関係形成過程について理解し、対象者と援助的な対人関係を形成する重要性を理解できる。

科目責任者(所属): 藤原 由記子(基礎看護学)

連絡先: 医学部アレスコ棟1階 教員室107室 (TEL)0859-38-6307 (E-mail)awanou@tottori-u.ac.jp

回数	月日	時限	講義室	授業内容	担当者	講座・分野・診療科	到達目標	授業のキーワード
1	10/5(金)	3	111	看護の実践過程:序章と第1章	藤原 由記子	基礎看護学	看護技術と看護過程について説明できる。	問題解決過程、看護技術、援助的対人関係形成過程、看護理論
2	10/12(金)	3	111	コミュニケーション(対人関係形成過程:患者-看護師関係)	藤原 由記子	基礎看護学	看護実践における対人関係成立について理解を深める。	援助的対人関係、対象者の理解 看護の方向性
3	10/19(金)	3	111	問題解決過程の構成要素	藤原 由記子	基礎看護学	アセスメント、問題の明確化、計画、実施、評価の過程が説明できる。	課題(問題)解決過程の特徴
4	10/26(金)	3	111	看護の情報と観察	藤原 由記子	基礎看護学	様々な観察方法と観察に影響する要因について考察できる。	看護の情報、選択知覚、概念枠組み
5	11/2(金)	3	111	事実の情報化	藤原 由記子	基礎看護学	データ収集の内容と方法、分析方法が説明できる。	手がかり、情報の種類、意味、推論、ヘンダーソン、看護の基本
6	11/9(金)	3	111	アセスメント(1)	藤原 由記子	基礎看護学	アセスメントについて説明できる。	情報、意味、推論、ニーズ、アセスメント過程
7	11/22(木)	2	共C31(湖山)	アセスメント(2)	藤原 由記子	基礎看護学	事例をもとに、アセスメントできる。	情報、意味、推論、ニーズ、アセスメント過程
8	11/22(木)	3	共C51(湖山)	課題(問題)の明確化(1)	藤原 由記子	基礎看護学	看護上の課題(問題)を明確化する過程を説明できる。	看護上の課題(問題)、原因、関連要因、関連図
9	12/6(木)	3	111	課題(問題)の明確化(2)	藤原 由記子	基礎看護学	事例をもとに、看護上の課題(問題)を明確化できる。	看護上の課題(問題)、原因、関連要因、関連図
10	12/13(木)	2	111	看護実践におけるケアリング	吉持 智恵	(非常勤講師)	看護実践におけるケアリングについて理解を深める。	ケアリングの意義、実践、効果
11	12/21(金)	2	共C51(湖山)	計画立案(1)	藤原 由記子	基礎看護学	看護目標と解決策の立案方法が説明できる。	長期目標、短期目標、解決策、優先順位
12	12/21(金)	3	共C51(湖山)	計画立案(2)	藤原 由記子	基礎看護学	事例をもとに、看護目標と解決策の立案ができる。	長期目標、短期目標、解決策、優先順位
13	1/10(木)	2	111	実施と評価	藤原 由記子	基礎看護学	看護実践の基本的な考え方と評価方法が説明できる。	生活リズム、看護技術の提供、目標達成度、問題解決過程の評価
14	1/24(木)	2	111	対人関係形成過程:プロセスノート	藤原 由記子	基礎看護学	プロセスノートを活用した看護場面の再構成の意義と方法を理解する。	自己分析、他者理解、プロセスノート
15	1/31(木)	2	111	看護の実践過程:まとめ	藤原 由記子	基礎看護学	看護実践過程についての理解を深める。	問題解決過程、看護技術、援助的対人関係形成過程、ケアリング

教育ブランドデザインとの関連:1、2、3、4、5、6、7

※到達目標・授業のキーワードを確認の上、予習・復習してください。

学位授与の方針との関連:1、2、3、4

授業のレベル:2

教科書: 1. ナーシンググラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術 メディカ出版 2017年

- 参考書:
1. 看護学基礎テキスト第1巻 看護学の概念と理論的基盤、日本看護協会出版会、野嶋佐由美編、2012年
 2. 看護学基礎テキスト第2巻 看護の対象、日本看護協会出版会、小山眞理子編、2012年
 3. 看護の基本となるもの、日本看護協会出版会、ヴァージニア・ヘンダーソン著、湯楨ます・小玉香津子訳、2011年
 4. ヘンダーソンの看護観に基づく看護過程、日総研、焼山和憲、2013年
 5. 看護論と看護過程の展開、照林社、金子道子編著、2002年
 6. 看護場面の再構成、日本看護協会出版、宮本真巳、2015年

評価: 課題 60% レポート 40%